



欄に数値またはコメントを記入

1. 建物概要						
建物名称	県営住宅袋井団地A棟	BEE	1.4	BEEランク	B+	★★★

2. 重点項目への取組み度						
重点項目	得点*/満点	取組み度	評価			
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)	3.5	/5		ふつう		
"災害に強いすおか"の形成 (Disaster)	2.5	/5		がんばろう		
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)	3.5	/5		ふつう		
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)	2.2	/5		がんばろう		
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)		評価 凡例	よい 4 点以上	ふつう 3 点以上	がんばろう 3 点未満	

3. 重点項目についての環境配慮概要		内訳対応項目					
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。							
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)		得点		3.5			
<ul style="list-style-type: none"> ■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数) <ul style="list-style-type: none"> ①断熱補強を行い、温熱環境の向上を図った。 ③底等によりグレアを制御。 ④品確法の等級3相当を取得。 ■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上) <ul style="list-style-type: none"> ⑤外構緑化指数15%程度でも、年間を通して四季を楽しむよう工夫した。 ⑥敷地入口は華やかに、駐車場廻りは一部分とし、メリハリをつけた外構植栽計画を行った。 ■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用) <ul style="list-style-type: none"> ⑦断熱補強による高断熱化。 ⑧自然通風による自然エネルギーの利用。 ⑨LED照明の採用。 ■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) <ul style="list-style-type: none"> ⑪節水型便器の採用。 ⑫二重床のパーテクルボードを採用。 ⑬発泡剤を用いた断熱材を使用。 ■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善) <ul style="list-style-type: none"> ⑭省エネルギー対策を講じる。 ⑮外構の全舗装面に透水性アスファルト舗装、又は透水性ブロックを採用した。 	Q-1	2	2.1	2.1.2	①	外皮性能	
	Q-1	3	3.1	3.1.3	②	昼光利用設備	
			3.2	3.2.1	③	昼光制御	
	Q-2	2	2.2	2.2.1	④	躯体材料の耐用年数	
			2.2.2	④	外壁仕上げ材の補修必要間隔		
			2.2.3	④	主要内装仕上げ材の更新必要間隔		
			2.2.4	④	空調換気ダクトの更新必要間隔		
			2.2.5	④	空調・給排水配管の更新必要間隔		
			2.2.6	④	主要設備機器の更新必要間隔		
	Q-3	1		⑤	生物環境の保全と創出		
		3	3.2	⑥	敷地内温熱環境の向上		
	LR-1	1		⑦	建物外皮の熱負荷抑制		
		2		⑧	自然エネルギー利用		
		3		⑨	設備システムの高効率化		
		4	4.1	⑩	モニタリング		
			4.2	⑩	運用管理体制		
	LR-2	1	1.1	⑪	節水		
		1.2	1.2.1	⑪	雨水利用システム導入の有無		
			1.2.2	⑪	雑排水等利用システム導入の有無		
	2	2.1	2.1.1	⑫	材料使用量の削減		
			2.1.2	⑫	既存建築躯体等の継続使用		
			2.1.3	⑫	躯体材料におけるリサイクル材の使用		
			2.1.4	⑫	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		
			2.1.5	⑫	持続可能な森林から産出された木材		
			2.1.6	⑫	部材の再利用可能性向上への取組み		
	3	3.1		⑬	有害物質を含まない材料の使用		
		3.2	3.2.1	⑬	消火剤		
			3.2.2	⑬	断熱材		
			3.2.3	⑬	冷媒		
	LR-3	1		⑭	地球温暖化への配慮		
		2	2.2	⑮	温熱環境悪化の改善		
"災害に強いすおか"の形成 (Disaster)		得点		2.5			
<ul style="list-style-type: none"> ■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性) <ul style="list-style-type: none"> ⑰節水型便器の採用。 	Q-2	2	2.1	2.1.1	⑯	耐震性	
				2.1.2	⑯	免震・制振性能	
			2.4	2.4.1	⑰	空調・換気設備	
			2.4.2	⑰	給排水・衛生設備		
			2.4.3	⑰	電気設備		
			2.4.4	⑰	機械・配管支持方法		
			2.4.5	⑰	通信・情報設備		
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)		得点		3.5			
<ul style="list-style-type: none"> ■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり) <ul style="list-style-type: none"> ⑱バリアフリー法誘導基準相当の計画とした。 ⑳最上階以外は階高3.0mを確保し、ゆとりを持たせた。 ■室外環境(敷地内)対策 (㉑地域性・アメニティへの配慮) <ul style="list-style-type: none"> ㉑アルコール・底などの空間を設け、アメニティへ配慮した。 	Q-2	1	1.1	1.1.3	⑱⑲	ユニバーサルデザイン計画	
		3	3.1	3.1.1	⑲	階高のゆとり	
			3.1.2	⑲	空間の形状・自由さ		
	Q-3	3	3.1		㉑	地域性への配慮、快適性の向上	
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)		得点		2.2			
<ul style="list-style-type: none"> ■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/㉒まちなみ・景観への配慮/⑥敷地内温熱環境の向上) <ul style="list-style-type: none"> ㉒街並みに配慮し、景観法に即した外装とした。 ⑥敷地入口は華やかに、駐車場廻りは一部分とし、メリハリをつけた外構植栽計画を行った。 ■敷地外環境対策 (⑮温熱環境悪化の改善) <ul style="list-style-type: none"> ⑮外構の全舗装面に透水性アスファルト舗装、又は透水性ブロックを採用した。 	Q-3	1		⑤	生物環境の保全と創出		
		2		②	まちなみ景観への配慮		
		3	3.2		⑥	敷地内温熱環境の向上	
	LR-3	2	2.2		⑮	温熱環境悪化の改善	

CASBEE[®]-建築(新築) | 評価結果 |

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	県営住宅袋井団地A棟	階数	地上5F
建設地	静岡県袋井市青木町5の一部	構造	RC造
用途地域	市街化区域、第一種中高層住居専	平均居住人員	126 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2021年6月 予定	評価の実施日	2019年7月22日
敷地面積	3,539 m ²	作成者	藤井智奈津
建築面積	717 m ²	確認日	2019年7月22日
延床面積	3,023 m ²	確認者	縣寿則



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE#NAME?

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

環境品質 (縦軸) vs 環境負荷 L (横軸)

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外のオンサイト手法 ④上記+オフサイト手法

46% (kg-CO₂/年・m²)

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.1

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.5

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.0

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.8

LR 環境負荷低減性

LR のスコア = #####

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.2

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.0

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = #NAME?

3 設計上の配慮事項		その他
<p>総合</p> <p>これはCASBEE静岡(2016年版)による評価結果です。 敷地は平坦で、北側隣地は緩やかな傾斜地になっている。団地の南部分に位置し、北側は今後取壊す予定の住棟が建っている。南側は道路を挟んで河川があり、日照条件は良好な位置といえる。敷地外への日影、駐車場を考慮して建物位置を南側とし、外構計画は防犯などを考慮してできるだけ見通しの障害となる部分を少なくした。</p>		
<p>Q1 室内環境</p> <p>南向きの室内は、日照が多くなるようにし、仕上材、下地材はF☆☆☆☆材を使用する計画をした。 複層ガラスを採用し、熱負荷低減に配慮した。</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>構造部材を損傷することなく設備の修繕、更新が可能となるよう配慮した。 各住戸は、TEL、TVを設置した。</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <p>周囲の街並みや景観を損なわないような外観となるよう配慮した。 緑地部分を計画、樹木の配置計画を行った。</p>
<p>LR1 エネルギー</p> <p>建物の外皮性能を高め、エネルギーの消費量を低減させるよう配慮した。 住戸の南北2面が、外気に面しており、採光、通風を考慮した。</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>土間下、基礎下には、RC40材を採用した。 リサイクル資材、有害物質を含まない材料を採用した。</p>	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>土間下、基礎下には、RC40材を採用した。 リサイクル資材、有害物質を含まない材料を採用した。</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される
 ■LCCO₂の算定条件等については、「LCCO₂算定条件シート」を参照された